

109 ○忌(諱) …忌み嫌う・恐れ避ける。口に出すのをはばかるもの。人の陰私・不祥のことの類。
の「作賦同元淑、能詩匪仲宣」の句を引く。↓補説②

『荀子』「正名」に「忌諱不稱、妖辭不出」の例が、また『漢書』「賈捐之傳」に「無忌諱之患」の例が、『淮南子』「要略」に「知逆順之變、避忌諱之殃」の例が見える。

▼【觸忌諱】 …人の氣にさわる。忌み嫌われる。

『魏志』「衛覬傳」に「非破家為國、殺身成君者、誰能犯顔色觸忌諱、建一言開一說哉」の例が見える。『漢語大詞典』では、「②避忌、顧忌」と説明する。

『老子』の「天下多忌諱、而民彌貧」の用例、および白居易の「初授拾遺詩」の「天子方從諫、朝廷無忌諱」の句を引く。

110 ○秃 …秃筆。

①ちびふで。さきのすり切れた筆。秃毫。杜甫「題壁上韋偃畫馬歌」に「戲拈秃筆掃驊騮、歛見麒麟出東壁」の句が見える。

②自由に書けぬ詩文の意。自己の文の謙称。

○麤(麤) …あらい(＝粗)。粗末なさま。精練されていないさま。(『漢辞海』)

○癡 …精神が錯乱する。くるう(＝癡狂)(『漢辞海』)

111 ○草 …下書き、起草、文章を書き起こす

○相視 …草稿を見てくれること。

『漢語大詞典』では「①相對注視」と説明する。